

# 2TPなう

2年7組  
クラス通信 No.04  
2017/07/27 発行

ここにたどり着くことが出来ませんでした。申し訳ありません。一学期の成績と共に、この間の我がクラスの様子を伝えたいと思います

## 一学期終業式式辞より

一学期終業式の際に校長先生のお話された式辞、覚えていますか、少し振り返りましょう。

一学期始業式で話を覚えていますが、人に優しい、そういった行動をとって欲しいという話をしたと思います。私が高校時代に読んだ小説を引用して話をしました。何という小説かわかりましたか、正解は夏目漱石の「門」です。何人かは図書館に行つて調べてくれたようです。今日は少し違う話をします。

ある講演会で

下町の町工場の女社長さんの話を聴く機会がありました。大きな石と小さな石、



めまぐるしい  
速さが過ぎ  
去っていきまし  
た。期末考查、  
機械製図検定、  
そしてインター  
ンシップ、生徒  
たちと同様に忙  
しい日々の中で

この両方があるからこそ、どつしりとした石垣が築けるんです。大きな石だけでは隙間だらけになり、小さな石だけではがちりとした組み合わせはできません。



そして、日本には大企業があり、中小企業があるからこそ、日本の技術は進歩したんですというような話でした。何か困ったことが起きた、その時にその困難をどうやって乗り越えるのか、そこに工夫があり、試練があり、そして技術が進歩するんですとも言われていました。

この話も非常に意味深いものですが、聴いていて非常に印象に残ったのは、実はその女社長さんが小さいころは非常にシャイな女の子で、人前で話をするなんてことはとてもできない、そういった女の子でした。お父さんは自分の会社を息子に託そうと思われていたのですが、若くしてこの息子さんがお亡くなりになり、次に生まれてくる子に全てを託そうと決め、生まれてきた女の子に会社の全てを託そうとしていたのですが、人前でしゃべることが苦手、いるのかいないのかわからない存在感、お父さんは娘を駅に呼び出し、娘は何故よばれたのかわからないまま駅に行き、急に大声で自分に対して怒鳴り始めたお父さん、すぐにその周りには人だかりができ、周囲の人からは

「何をやってんねん」と言葉が飛ぶ、そうこうしている内に、人だかりに警察が来た、娘は小さいながらも今のままでお父さんが警察に連れて行かれる、これは何とかせんとあかんと思いい、大勢の人の前で「お父さん家に帰りたい」と声を発しました。その日は二人で家に帰ることが出来ました。お父さんは娘にこう話しました。「今日お前は一生心に残るくらいの傷を負ったくらい気持ちだつたらう、そしてあなただかりにいた人たちも、今日の夜家で話をするだろう。どことこの誰が、こんなことした、という風に各家庭で話をするだろう。だけど明日になったらもうそんな話はない。何時までも一つのことならをずーっと思ってるっていう事は他人はないんだよ」この話を聞いて、お父さんは二つの事を伝えたかったんです。シャイで内気な女の子に人前でしゃべらせたい、周りの人が自分のことを口にしてるなんて思う事は一過性で、長い時間他人の事を思っていることはないよと伝えたかったんです。皆さんに今日知って欲しいことは、「気にする」ということは、どういう事かということです。「気にする」ということは自分が気にしている、人はそんなに何時までも気にしてない、こう考えると自分も楽になりますか、実は自分が気にすること、自分を苦しめていませんか」と



いうことです。心の片隅に置いておいて下さい。何かそんなことがあった時に、あの時校長先生が言っていたなと思いだしてもらえたらいいなと思います。長い夏休み、色々な行事もあります。英気を養い、またこの場で会いましょう。

## インターンシップ

七月二十五日(火)から四日間機械技術科では、学校近隣の二十社の御理解と御協力を得て、インターンシップに参加させていただいています。期末考查終了後、そして前日の二十四日(月)などに、色々な方から今回のインターンシップに参加する意味や目的についてお話を頂き、より一層気持ちを引き締めて取り組んでくれています。二十五日に面談をした四名の生徒からは、異口同音に「しんどかった、でも楽しかった」というような感想を聴くことが出来、まずはホッと一安心でした。まだこの通信を書いている今はインターンシップの真つ只中ですが、全員がかげがえのない経験をして、一回りも二回りも成長してくれることを願っています。併せて、八月二日(水)の事後指導の際に、クラス全員で体験発表会をしたいと伝えていきますので、それも今から楽しみにしています。全員が怪我なく、無事にインターンシップを終えられることを願います。



## 機械製図検定

六月十六日(金)に一次試験、七月十五日(土)に二次試験を行いました。一次試験は問題集を三月に購入し、製図の授業で丁寧な説明をしながら、問題集を完成させて、その後、授業の中で検定の過去問に取り組み、何とか全員一次試験突破のつもりで共に頑張ってきたのですが、残念ながら十七名の合格にとどまりました。ただし、受験生全員の平均点が百七点になりました。百五十点満点の七割の百五点で合格でしたが、非常に惜しかった生徒も沢山居て、来年は絶対に今年残念な結果になった生徒も合格して欲しいと願います。二次試験に向けては、課題を一枚渡されて、二時間三十分かけて課題を完成させる内容ですが、課題を理解するために過去問を何度もやることで、課題を理解しやすくなるのですが、ここ数年非常に困っているのが、夏の猛暑対策です。製図室にはエアコンがなく、半袖半ズボンで作業をしているのですが、高温多湿の部屋で、今年は冷却スプレーを生徒に対して吹き付けながら、大変な環境の中で講習をなんとかやりきりました。この講習の成果もあって、一次試験を突破し



た十七名の生徒が全員二次試験に合格することが出来ました。暑い、苦しい、しんどい思いはしましたが、無事二次試験受験生徒が全員合格できてよかったです。

### 機械製図検定合格者一覧

石田・小田原・梶原・片畑・加納・川越・小西・齋藤・高橋・高濱・中村・船川・堀・森・山田・萬木・吉田以上十七名の皆さん、本当に合格おめでとうございます。これからもより一層頑張ります。

### 高校生ものづくりコンテスト

七月二十二日(金)、二十三日(土)に本校機械工場を会場にして、平成二十九年度高校生ものづくりコンテスト普通旋盤作業部門京都府大会が実施されました。この

大会に小田原君が出場し、府立工業高校の機械プランニング科三年生の生徒と勝負をし、見事京都府代表として近畿大会への出場を決

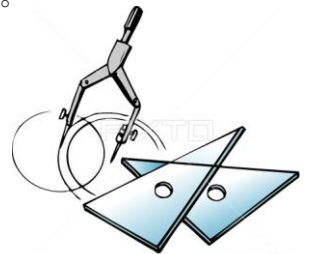


photo - 7552805



めることが出来ました。コンテストの内容は与えられた図面の課題を二時間三十分以内に製作し、寸法精度を千分の1mm単位で正確に仕上げ、その寸法の精度、表面の仕上がり具合等を競う内容になっています。丁度一年前からこの大会に向けて準備をして、今年度の課題が発表になってからは放課後工場に遅くまで残り課題作成に取り組み、土・日曜日などには高度熟練技能工であられる、日新電機株式会社の藤井さんから手厚い指導を受け、繰り返し練習をすることで、当初は規定時間内での作品完成すらできなかった状態から、練習でうまくいった時は、寸法の誤差による減点がほぼ無いような状態まで作品の完成度を高めることが出来るよ



うになりました。ここまで来ることが出来たのは、

色々な人の気持ちのこもった温かい指導があったのももちろんですが、小田原君本人が例えようの無いくらい、大変な努力をしたことは間違いありません。次は八月四日、五日に大阪府摂津市にあります、ポリテクセンター関西にて行われます近畿大会での上位入賞をめざし、さらに努力して、さらに上のステージで活躍できるようになってもらえたら嬉しいですね。私も近畿大会当日朝から会場に駆けつけて微力ながら応援をさせて頂きたいと思えます。

### 担任として・・・

最後になりますが、クラス通信第四号、最後まで読んでいただきありがとうございます。三者面談の連絡が遅くなり本当に申し訳ありませんでした。担任として力不足を感じながら、保護者の皆様から頂いたメッセージを読み、勇気づけられ、自分の思いが皆さんに届けられていることを改めて知れたことがうれしかったです。夏休み、家族の時間を大切にして、お互いに元気な顔で二学期始業式を迎えましょう。

谷口和三

